

単元名 くちばし

配当時間 8時間

- 単元の目標 (1) 文の中における主語と述語の関係に気付くことができる。
 (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
 (3) 文章の内容の大体を捉えるとともに、ペアで協力して、音読しようとする。

標準的な展開例

01010110_001

【教材名】くちばし (上 P. 52～P. 59)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 学習の見通しをもつ。 ★「問い」と「答え」を考えて「くちばし」を読もう。 ○鳥やくちばしについて、知っていることを出し合い、興味をもつ。 ○教師の範読を自分の予想と比べながら聞き、内容の大体を知る。</p> <p>2～6 教材文を読み、内容の大体を捉える。 ○写真を見ながら、教材文を読む。</p> <p>○「きつつき」の文を読み、問いの文を視写する。 ○「これは、一です。」という答えの文を視写する。</p> <p>○「おうむ」「はちどり」についても同様に視写する。</p> <p>7 いちばん興味をもったくちばしについて、わけとともに伝え合う。</p> <p>8 学習を振り返る。 ○「問い」と「答え」という文章形式を確かめながら、ペアで音読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・くちばしだけの挿絵を使い、クイズにして興味付けしてもよい。 ・3種の鳥のくちばしの文章であることを確かめる。 ・本文と写真とを対応させながら読むようにする。 <p>【評】「くちばし」を読む活動を通して、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>【評】視写を通して、文中における主語と述語の関係に気付く「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのくちばしについて「問い」と「答え」を確認し、答えの後に、詳しく説明している部分があることを確かめさせる。 ・くちばしの形とえさの関係に着目させる。 ・鳥のえさの取り方については、児童の発言がなければ、教師が説明する。 ・児童の実態に応じて、穴埋めにしてもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・わけを話すときには「どうしてか」というという文型を使えるようにする。 ・生き物の本や図鑑を利用してもよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・問いと答えに分け、意識させて読ませる。 <p>【評】ペアで音読する活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p>

【 備 考 】